

①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進
目的	県民、事業者、NPO等の団体、行政が一体となって、地域における環境保全や地球温暖化対策に取り組むとともに、環境への負荷の少ない循環型社会の実現を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
県内総生産（100万円）あたりの年間エネルギー使用量（前々年度）	目標値		21.4	21.1	20.8	20.5	GJ 以下	産業廃棄物の再生利用率（前年度）	目標値		56.3	56.4	56.6	56.7	%
	取組目標値				18.4	17.9									
	実績値	21.8	20.6	18.9					実績値	51.9	53.9	56.7			
	達成率	-	103.8	110.5					達成率	-	95.8	100.6	-		
公共用水域におけるBOD（COD）環境基準達成率	目標値		85.0	85.0	85.0	85.0	%	学校における3R・適正処理学習支援事業実施校数	目標値		21.0	31.0	41.0	50.0	校
	取組目標値														
	実績値	88.2	88.2	85.3					実績値	11.0	17.0	19.0			
	達成率	-	103.8	100.4	-				達成率	-	81.0	61.3	-		
定性目標	平成28年度～平成31年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・県内総生産（100万円）あたりの年間エネルギー使用量の29年度実績値は、最新データである27年度の速報値で評価（県内総生産の変更に伴う影響あり（変更前の県内総生産で算出した実績値：20.6GJ）。） ・産業廃棄物の再生利用率の29年度実績値は、最新確定データである28年度の実績値で評価 														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点での施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内のエネルギー使用量は、平成11年度をピークに減少傾向にあり、平成27年度は、前年度比1.7%減で、産業、運輸、民生の全部門で減少した。 ・平成27年度の温室効果ガス排出量は、前年度と比べ2.0%減少、産業、運輸、民生の各部門で減少した。 ・県内の産業廃棄物排出量（平成28年度）は、前年度比15.8%増、最終処分量（平成28年度）は、前年度比7.9%減少した。 ・下水道の整備や穴道湖東部浄化センターでの高度処理等により、穴道湖・中海に流入する汚れの量（生活系汚濁負荷量）は着実に減少しているが、新たに大幅な削減は見込めない。 ・県内に設置されている浄化槽のうち、約半数がし尿のみを処理する単独処理浄化槽のみである。 ・学校における3R・適正処理学習支援事業の平成29年度新規実施校は、10校（小学校7、中学校2、高校1）で、前年度比2校の増となった。 ・エコファーマーについて、高齢化に伴う経営移譲や認定期間終了時に更新しない事例が多くなっている。 ・化学肥料、化学合成農薬の5割以上低減が必要な水稲「つや姫」の作付面積増加とともに、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動が増加。
--------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいる（見直す点がある） C:あまり順調に進んでいない	B	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量は、前年度比で減少したが、平成2年（県地球温暖化対策実行計画基準年）と比べ9.1%増加した。特に民生部門は40%を超える大幅増となっており、一層の取組が必要である。 ・公共用水域におけるBOD（COD）環境基準達成率は、85.3%で目標を達成したが、穴道湖・中海では、未達成の地点がある。 ・産業廃棄物再生利用率は、目標を達成したが、さらなる再生利用の向上と維持が必要である。 ・学校における3R・適正処理学習支援事業実施校数は目標を下回っているが、今年度10校が新たに追加される見込みであり、引き続き実施を呼びかけていく。 ・エコファーマー認定数は、化学肥料・化学合成農薬の5割以上低減が必要な「つや姫」の作付や環境保全型農業直接支払交付制度に新たに取り組む農業者の増加により、目標に沿って増えている。

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況（予測） A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	判断	その理由（④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
(2)施策の目的達成に向けての課題	B	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー行動の定着には、継続的な普及啓発による粘り強い取組が必要で、特に計画基準年比で増加した民生業務、民生家庭の両部門での省エネルギーの取組を強化する必要がある。 ・廃棄物の最終処分量は減少しているが、特に排出量の多い汚泥、がれき、燃え殻の発生抑制による減量と事業者における再生利用促進が必要である。 ・穴道湖・中海の環境基準達成には、流入負荷の計画的な削減や汚濁メカニズムの解明、水質悪化につながる水草・アオコ等の大量発生の原因究明や水草、アオコ等が大量発生した場合における底質悪化や悪臭等の未然防止等が必要である。 ・県有施設を含め、単独処理浄化槽から、より水質汚濁への影響が少ない処理方策への転換を推進し、河川や湖沼への汚濁防止や水質保全を図る必要がある。 ・3R・適正処理学習支援事業では、未実施校に事業活用を促すには、参考になる他校での取組紹介など、さらに情報発信の内容を工夫し、学校側の担い手と一致するような効果的な提案を行うことが必要である。 ・近年、高齢化に伴う経営移譲や認定期間終了時に認定を更新しない事例が多くなっているため、エコファーマーによって作られた農産物に対する消費者や小売店等の一層の理解・購入促進が必要である。また、今後のエコファーマー制度の国の取り扱い等について動向を注視していく必要がある。

⑥今後の取組の方向性

課題解決に向けての今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度からの「しまね流エコライフ推進事業」により、島根らしい環境にやさしいライフスタイルの実現に向けた取組を強化する。特に新規・拡充する、①環境にやさしいライフスタイルへの転換、②環境にやさしい地域コミュニティの推進、③省エネ・省資源社会の推進、④情報発信、⑤環境と人にやさしい企業づくりの推進などの取組を着実に進めていく。 ・循環型社会実現のため、産業廃棄物の排出削減に関する取組を支援する。また、事業者に対するリサイクルしやすい素材開発などの技術支援や施設整備支援、リサイクル製品の販路開拓支援に取り組む。 ・安全で信頼のできる産業廃棄物処理体制を確保するため、排出事業者、処理業者などに対する指導や産業廃棄物処理施設に対する監視・指導に引き続き取り組む。 ・湖沼水質保全計画を策定し関係機関と連携して穴道湖・中海への流入負荷の削減を図るとともに、両湖の汚濁メカニズムを解明するため、引き続き調査・研究を行う。また、水草、アオコの発生原因解明調査や発生した場合の回収・処理等適切な対応については、河川管理者である国への要望のほか、国や市などの関係機関と連携して取り組む。 ・単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換については、県関係課とも連携し、設置者である地域住民への働きかけや実施可能な県有施設の改善に取り組んでいく。 ・次世代を担う人材育成のため、学校における3R・適正処理学習支援事業の活用が進むよう、引き続き効果的な情報発信を行っていく。 ・エコファーマー制度やエコロジー農産物推奨制度のPRを図り、引き続き新規認定や認定更新を推進するとともに、エコファーマーのエコ栽培から有機栽培へのステップアップなど県全体の環境保全型農業の高度化を進める。
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策評価シート別紙1(5以上の成果参考指標がある場合のみ記載)

施策の名称	施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進
-------	-----------------

②総合発展計画に定める成果参考指標の目標(実績)

項番	指標名等	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
5	エコファーマー認定件数の累計(平成24年度以降)	目標値		2,306.0	2,391.0	2,477.0	2,563.0	人
		取組目標値						
		実績値	2,211.0	2,340.0	2,398.0			
		達成率	-	101.5	100.3	-		
6		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
7		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
8		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
9		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
10		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
11		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		
12		目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-		

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進
-------	-----------------

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	環境保全功労者知事感謝状贈呈事業	環境保全活動の意欲を高め、活動の裾野を広げる。	35	74	環境生活総務課
2	しまね流エコライフ推進事業	地球温暖化防止対策として温室効果ガスの排出削減や省エネ行動を促進するとともに、3R(廃棄物の発生抑制・再利用・再生利用)の取組や環境教育を推進し、環境への負担の少ない循環型社会の実現を目指す。	117,700	231,260	環境政策課
3	環境保全企画推進費	県民一人ひとりの環境保全に対する意識を醸成し、環境保全活動への各主体の参加を促進する。	5,994	6,602	環境政策課
4					
5					
6	大気環境保全対策事業費	1. 大気環境を監視測定し、快適な大気環境を守り、県民の健康を維持する。2. 大気汚染緊急時には、県民へ注意を促すため、速やかな周知を行う。	52,593	77,990	環境政策課
7	環境影響評価制度推進事業費	大規模事業の実施に係る環境影響の回避・低減を図る。	913	796	環境政策課
8	騒音・振動・悪臭対策費	航空機騒音に係る環境基準の達成状況を把握し、施策推進の基礎資料を得ると共に、県民への周知を行う。	101	97	環境政策課
9	公害紛争処理対策事業費	公害紛争や苦情の早期処理に向けた支援をする。	0	275	環境政策課
10	しまねの水環境モニタリング事業費	公共用水域及び地下水の水質汚濁の状況を把握するとともに、工場排水を規制すること等により、水質汚濁の防止を図り、水環境の保全を図る。	13,359	15,700	環境政策課
11	土壌環境保全事業費	土壌汚染対策を図ることにより、県民の健康を保護する。	297	251	環境政策課
12	穴道湖・中海水質保全事業費	新たな水質浄化対策を構築し、今後の水質保全対策に資する。	12,035	26,921	環境政策課
13					
14					
15	事業者の3R推進事業	廃棄物の排出量の削減、再生利用量増加に取り組んでもらう。	19,092	70,000	廃棄物対策課
16	一般廃棄物処理施設整備事業	一般廃棄物の適正処理を行う。	1,981	2,163	廃棄物対策課
17	産業廃棄物処理施設の許可・監視・指導等事務	産業廃棄物処理施設の不適正な管理により、生活環境の保全上支障が生じないようにする。	1,680	3,161	廃棄物対策課
18	公共関与産業廃棄物最終処分場確保対策事業	適正に処理されるように産業廃棄物の処分先を確保する。	158,800	158,800	廃棄物対策課
19	一般廃棄物適正処理推進事業	海岸漂着物を円滑に処理し、沿岸住民の安全を確保するとともに、海洋環境の保全を図る。	197,585	228,383	廃棄物対策課
20	不法投棄等対策強化事業	廃棄物の不法投棄防止を図り、地域の生活環境を確保する。	23,464	29,861	廃棄物対策課
21	浄化槽適正管理指導啓発等事業	浄化槽の適正な維持管理を推進し、公共用水域の水質保全を図る。	349	789	廃棄物対策課
22	ダイオキシン類対策事業	監視ポイントを定め継続的に監視し、必要な対策を講ずる。	7,560	6,226	廃棄物対策課
23	環境ホルモン対策事業	環境省が実施する一般環境中の既存化学物質の残留状況の把握調査に協力する。	461	626	廃棄物対策課
24	PCB廃棄物処理推進事業	1. 保有中のPCB廃棄物等を、法律で定める期限までに適正に処理させる。 2. 保有中のPCB廃棄物等が処理されるまでの間、適正に保管させる。	7,292	20,185	廃棄物対策課
25					
26	いのち育む島根の『環境農業』推進事業	環境保全型農業に取り組む農業者を増やす。	5,729	5,704	農産園芸課
27	資源循環対策推進事業	農業分野での環境負荷軽減・資源循環の推進。	352	513	農産園芸課
28	環境保全型農業直接支援対策事業	環境保全型農業に取り組む農業者を増やす。	75,254	87,367	農産園芸課
29	資源循環型技術経営支援事業	産業廃棄物の発生抑制に向けた研究開発を行い、事業化を図る。	35,613	33,800	産業振興課
30	鉱業振興対策事業	県民の健康保持と地域の環境保全。	911	964	産業振興課
31	環境対策を行う企業に対する間接融資事務	企業の事業活動に伴う環境への負荷を低減する施設改善に必要な良質の資金を調達できる	26,513	123,706	中小企業課
32	流域下水道高度処理事業	穴道湖流域東部浄化センターの流入水の窒素及びリンを可能な限り除去し、穴道湖・中海の水質保全を図り、快適な水環境を提供する。	0	0	下水道推進課
33	汚水処理施設発生污泥有効利用事業	汚水処理施設で発生する污泥を、再資源化など、より有効に利用することで、環境への負荷を低減し、併せてコスト削減を図る。	235,417	282,934	下水道推進課
34	産業廃棄物減量促進基金事務	産業廃棄物減量税の賦課、また、税収の有効利用による産業廃棄物の減量化やリサイクル等の促進により産業廃棄物の最終処分量を削減する。	294,269	213,968	環境政策課
35	電気工事士免状交付事業	電気工事士免状の交付事務を民間活用(アウトソーシング)により効率化することで、業務量と時間外勤務の削減を図るとともに、県民の利便性向上を図る。	0	1,487	産業振興課
36					
37					
38					
39					
40					